

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島郡瀬戸町24
電話 2-9772

生徒指導より

平成三十年の一年の世相を表す漢字は「災」でした。島根県西部地震や西日本豪雨などの自然災害、仮想通貨流出や大学不正入試問題などの人災が選出理由だったようです。個人的には平成最後の世相漢字が「災」であることに残念な気持ちがありますが、日本には「災い転じて福となす」というポジティブな言葉もあります。以前、ある校長先生が我々教職員に、問題が起ころう度に「ピンチはチャンスだけん」と笑顔で声をかけてくださったことを思い出します。隠岐教育事務所に配属され、島前島後を行き来するようになってから、昔、問題行動等で度々指導していた子供たちに会うようになりまし

た。みんな驚くほど立派な大人になっており、散々叱っていた私に対して自分から声をかけてきます。そんな時、校長先生の言っていた「ピンチはチャンス」を実感するのです。ピンチの時、指導する側は自分の無力さを感じたり、裏切られた気持ちになったりと暗くなりがちです。きつと指導された子供も、その保護者も苦しさを感じていたことでしょう。しかし、結果的に子供たちや保護者と長く、深く関わることで、十年後も声をかけあえる信頼関係が生まれたのだと思います。

今年度、各学校の先生方が子供たちと積極的に関わり、子供たち同士を関わらせようとしていたのが、とても印象に残っています。普段の生活、授業、ピンチの時…全ての関わりが着実に子供たちを成長させていると信じています。

（文責 新谷）

一年を振り返って 特別支援教育の 視点から

今年度も学校訪問等で大変お世話になりました。今年度は今一度「自立活動」についての周知を図りたいという思いで新規に特別支援教育に係る申請学校訪問に取り組みさせていただきました。

今年度の対象校は五校で、公開授業、研究協議、自立活動についての校内研修の時間を設けていただきました。公開授業は特別支援学級、通常の学級と様々でしたが、校内の先生方が特別支援教育という共通の視点を持って授業を見合う素敵な機会を作っていただきました。授業者の先生方には、実態把握をもとに見守るという支援も含め必要な支援を準備された素晴らしい授業を提供いただき、当日は子供の達成感にあふれた姿を参観した校内の先生方と共有することができました。

研究協議や校内研修の中で「自立活動の視点に立つと、大切なことは、自己理解と自己受容。私として得意、苦手。でも大丈夫。こうすれば、助けを求めればうまくいく、ということの子供自身に獲得してもらおうこと」とお伝えさせていただきました。加えて自立活動の指導は、いつでも、どこでも行う指導で、どの先生も指導者となりうるということも確認させていただきました。「自立活動?」「特別支援学級担任が指導する学習ですよね?」初めはそういう率直な声も届けていただきながら、最後には「みんなですべて私も取り組んでいきます」といった言葉をいただくことができました。

十二月、ある子供の学校生活振り返り返った発表を聞く機会を得ました。苦手さからうまくいかなかった過去や今の自分の得手不得手にしっかりと目を向け、その上で自分はどうすれば頑張ることができるかというような内容を



原稿もなしに、堂々と自分の言葉で伝える姿がありました。胸が熱くなる素晴らしい姿でした。こういう姿を先生方と求めていきたいと改めて思いました。

（文責 加多）

社会教育主事及び公民館主事等による 実践交流会

二月十九日に派遣社会教育主事連絡会の機会を利用して「社会教育主事及び公民館主事等実践交流会」を海士町で実施しました。

本実践交流会のねらいの一つ目は、実践者が実践発表したり意見交換したりする中で、自らの実践を振り返り改善を図ることにより、次へのステップになるようにすることです。二つ目は、他町村の事例について意見交換する中で、参加者が新しい情報を収集するとともに、町村を越えたつながりを持つ機会とすることです。

発表事例としては、海士町より「豊田地区の地域活性化」

（文責 林）